

第2回館林市立学校適正規模・適正配置南地区検討委員会 議事録				
日時	令和8年7月14日（火） 午後2時00分 ～ 午後4時00分			
場所	館林市赤羽公民館 講堂			
出席者	委員	村山 義久 栗田 裕 桑子 博行 森脇 剛 高井 美智代 平井 智久 高津 明子 鎌田 尚之 間 あさひ 知久 大輔 田端 智子 橋本 美帆	欠席委員	清水 涼子
	市教委	教育長 中村 美江子		
	事務局	教育部長 木村 和好 教育総務課長 荒川 博一 学校適正配置推進室長 栗田 祥仁 学校教育課長 峯崎 正樹 学校適正配置推進室 学校適正配置推進係長 中村 智仁 同係 指導主事 荻野 和明 同係員 塚越 崇元 〃 横山 瑠璃子		

1 開会

- ・委員 13名の過半数となる 12名の出席により、南地区検討委員会が成立することを確認。

2 議事

発信者	内容
事務局	定刻となりましたので、ただいまから「令和 8 年度第 2 回館林市立学校適正規模・適正配置南地区検討委員会」を開会いたします。 はじめに、本日の会議につきましては、館林市立学校適正規模・適正配置南地区検討委員会規則第 8 条の規定による委員の過半数の出席を満たしているため、会議が成立しましたことをご報告させていただきます。 次に、本日の資料を確認させていただきます。事前に郵送等でお送りした資料のご用意をお願いいたします。 (次第に基づき、資料を確認) それでは、議事に移ります。議事の進行は村山委員長をお願いいたします。
委員長	それでは、議長を務めさせていただきます。 議事に入る前に、前回欠席された委員から自己紹介を賜りたいと思います。 (委員挨拶) ありがとうございました。 続きまして、議事に移ります。はじめに、事務局より説明をお願いします。
事務局	事務局から本日の検討委員会の進め方についてご説明いたします。お手元の次第をご覧ください。議事につきましては、はじめに報告事項として、これまでの学校再編の取組経過や前回の検討委員会での意見の状況などについて共有をさせていただきます。また、市民説明会や前回の検討委員会でもご意見がありました、多様な児童生徒への支援体制についても取組の状況をご報告させていただきます。 その後、議題として南地区の現状と課題解決の方向性についてご検討いただきます。詳しい内容は後ほどご説明いたしますので、本日はどうぞよろしくお願いいたします。
委員長	それでは、次第に沿って進行させていただきます。

	報告（１）「これまでの学校再編の取組経過」について、事務局から説明をお願いします。
事務局	報告資料集の１ページ、「館林市立学校適正規模・適正配置検討委員会設置までの経過」をご覧ください。こちらは館林市立学校適正規模・適正配置に関する取組経過についてまとめたものとなっております。前回、第１回の検討委員会で説明させていただいたとおり、館林市立学校適正規模・適正配置については、令和５年１１月に開催した令和５年度第２回総合教育会議において、教育環境に関するアンケート調査の実施と基本方針を策定するための審議会の設置を決定したことを始めとし、先月、６月１０日に第１回検討委員会を開催した経過までを掲載しております。この間、市議会をはじめ、学校や園、行政区、保護者、関係団体などに適宜学校再編の取組や経過について説明を行ったほか、市民説明会や動画などを通して情報を発信しております。 今後も、検討委員会の進捗状況など随時情報共有とわかりやすい情報発信を図ってまいります。よろしくお願いいたします。
委員長	「学校再編の取組経過」はこれまでの経過を示した資料ですので、ご承知おきいただければと思います。 続いて、報告（２）「前回の振り返り」について、事務局から説明をお願いします。
事務局	同じ資料の１０ページ、「南地区検討委員会意見集約」をご覧ください。こちらは前回、第１回検討委員会の議題である「基本方針の感想及び立場における現状と課題」において、委員の皆様のご発言内容やご意見・ご質問シートでいただいた内容を簡潔にまとめたものとなっております。なお、発言者の氏名と所属は公開時に個人を特定できる情報となりますので、伏せさせていただきました。 また、こちらの南地区のほか、北地区と西地区の意見の状況についてもお配りしました。ほかの地区ではありますが、いただいたご質問と回答について参考としてご紹介させていただきます。４ページの北地区、ナンバー１５をご覧ください。「再編のスケジュールについて４～５年とあるが、その基準の認識は検討が始まったＲ５年からか、もしくは今年度からなのか教えてほしい」というご質問でした。こちらにつきましては、今年度からの考え方となります。次に、７ページの西地区、ナンバー５をご覧ください。「検討委員会後、市議会に諮るのか位置付けをはっきりしてほしい」というご質問がありました。検討委員会の状況は市議会へ随時報告を行っていきます。検討委

	員会において基本計画（案）を策定し、パブリックコメントを経て、市教育委員会が基本計画を策定していくといった回答を記載しております。説明は以上となります。
委員長	「前回の振り返り」については、北地区と西地区のご意見も添付しております。今後も各地区の状況を随時共有しますので、適宜ご確認ください。 また、前回の検討委員会の内容について、所属の団体や関連の皆様へ情報共有いただいた際、預かったご意見等がありましたらこの場でご発言をお願いいたします。それでは、挙手にてお願いいたします。
委員	公立園では、10園全ての園で保護者アンケートという形でご意見を伺いました。1名から今日ご意見をお預かりしてまいりましたので、ここで発表させていただきます。 「同一中学校に進学するのであれば、中学校に小学校を新設してほしい」というようなご意見がありました。中1ギャップの懸念が解消されるのではないかというご意見です。同じ方ですが、そのほかに「中学校ベースで小学校を振り分けるという考え方にして、今後学区の考え方を見直したらどうか」というようなご意見をお預かりしてまいりました。
委員長	ありがとうございます。一旦お預かりさせていただき、参考とさせていただきます。そのほかにございますか。 （意見なし） 続いて、報告（3）「多様な児童生徒への支援体制について」、事務局から説明をお願いします。
事務局	資料の12ページ、13ページの資料をご覧ください。令和8年度における多様な児童生徒への支援体制についてということで、その概要について記載をさせていただきました。市内での取組に関しまして、概要を1から順に説明いたします。 まず1、特別な支援を必要とする児童生徒の支援体制です。①につきまして、本市では児童生徒の特性及び教育的ニーズに応じて各校に特別支援学級を設置し、子どもたちへの指導・支援、また、社会的な自立に向けた支援等を行っております。②は、LD、ADHD等通級指導教室の設置です。なかなか聞き慣れない方もいらっしゃるかと思いますが、通級指導教室とは、通常の学級に在籍しながら学習及び生活等にやや困難さを感じる児童生徒に対して個別に指導を行うといった教室です。現在、市内の4つの小学校と1

	つの中学校に設置し、きめ細かな支援を行っています。③は、ことばの指導教室です。幼児期から小学校の発達段階において発話における心配や不安を和らげるための指導を幼児や児童に行っている施設です。 続きまして、2の日本語指導・外国籍児童生徒への支援体制です。皆様もご存じのとおり、ここ数年、本市内での外国籍児童生徒は非常に増加傾向にございます。そういった外国籍児童生徒への日本語指導・支援にあたりまして、本市では小学校に3つ、中学校に1つ、日本語指導教室を設置しております。また、今年度からは各学校で日本語指導における初期指導を特に重点的に行うという目的で、本市の教育研究所に「つつじみらい教室」という日本語学習プレクラスを設置しました。現在までのところ、市内の延べ8名の児童生徒が利用して初期指導及び学校への生活指導を受けて、また学校への在籍、円滑な指導に向けた支援を行っています。 続きまして、3の不登校対策及び支援体制です。現在文科省が示す誰一人取り残されない学びの保障に向けた不登校対策に基づき、本市での校内体制の強化や市の教育支援センターの設置、ICTを活用した支援体制の充実等、多角的な支援を行っています。市の教育支援センター及び校内教育支援センターの詳細につきましては、資料①から②に示させていただいておりますので、そちらをご覧ください。①につきましては、本市の教育支援センター「ふれあい学級」の設置です。学校以外における児童生徒の居場所として、学習指導や生活指導、個別指導、親子で参加できる野外体験の活動など様々な取組を行っています。②は、校内における教育支援センターの設置です。学校に登校はしているものの、なかなかクラスに入ることに抵抗を感じているようなお子さんの居場所又は相談の場所として、校内教育支援センターの充実を図っております。最後に③としまして、本市ではROCKET Labという非常に特色ある取組がございます。不登校児童生徒や学校環境に馴染めずにいるお子さんの中でも、非常に科学的な興味・関心の高いお子さんを対象に、たてばやし向井千秋記念子ども科学館で科学実験等を通して子どもたち自己肯定感や自己有用感を高めるといった支援体制を取っております。いずれにしましても、不登校児童生徒もこの傾向にありますが、多様な支援体制を整えながら社会的な自立に向けた支援の充実を図っているところでございます。 多様な児童生徒への支援体制についてということで、学校教育課を中心に、関係各課や民間施設等とも連携しながら支援を進めております。以上でございます。
委員長	特別支援教育、外国籍児童生徒への支援、不登校対策の3つの観点から、現

	在館林市で展開している多様な児童生徒を支える体制について説明がありました。一人一人の状況や教育的ニーズに応じて、学習面・生活面の両方から支援を行い、共感的な学校づくりを各学校で展開していることが確認できたと思います。 続きまして、議題に移ります。(1)「南地区の現状と課題解決の方向性検討」について、事務局から説明をお願いします。
事務局	それでは、A4横版資料の第2回議題資料と付属資料集をご用意ください。議題資料を1枚めくっていただくと、2ページ目が目次となります。まず、課題解決の方向性を検討する上での基本的な考え方について、資料に沿って説明させていただきます。 3ページをご覧ください。こちらは、小学校の配置と通学区域を表した資料です。市内の小学校の位置と、青い線で通学区域を表しております。なお、赤い四角は中学校の位置を示しております。 続いて、4ページをご覧ください。こちらは、中学校の配置と通学区域を表した資料です。市内の中学校の位置と、赤い線で通学区域を表しており、青い丸は小学校の位置を示しております。 続いて、5ページをご覧ください。こちらは基本方針で定めている適正規模の基準と適正配置の基準を抜粋したものです。前回の第1回検討委員会でもご説明させていただきましたが、学校の再編を検討する上で前提となる基本的な考え方になりますので、再掲させていただきました。 続いて、6ページをご覧ください。こちらにも基本方針に掲載している学校再編の方法になります。学校の統合と通学区域の見直しを、各学校や地域の実態に応じて行っていく内容です。本市の学校再編では、分散進学への解消も大きなテーマとなりますので、同一小学校から中学校へ通学できる配置をすることで分散進学への解消を行い、小中連携を図り、義務教育9年間を見通したカリキュラムを編成しやすくすることを目指します。このほか、留意事項も記載しておりますのでご確認ください。 続いて、7ページをご覧ください。こちらは通学区域の現状です。先ほどご説明した分散進学について、南地区では小学校の分散進学はありませんが、四中が二小と六小の一部児童の分散進学先になっております。分散進学による懸念事項として、友人関係の分断、中1ギャップの懸念、小中連携のハードル、地域コミュニティへの影響が挙げられます。また、下段には二小と六小の進学状況の表を掲載しました。直近の令和8年度では、二小から四中への進学が43パーセント、六小から四中への進学が0パーセントとなっております。六小には四中学区の児童もおりますが、5名が三中に指定校変更を

	行った結果、令和８年度は０パーセントとなっている状況です。このほか、ほかの地区になりますが、十小の分散進学状況を付属資料集３ページに掲載しております。 以上が、課題解決を検討する上での基本的な考え方となります。
委員長	ただいま説明のあった内容につきましては、基本方針にも記載があるように、本市の学校再編を進める上で委員の皆様にご共有いただきたい部分ですので、再度確認の意味で資料に掲載をさせていただきました。これについては何かご質問等ございますか。 (質問等なし) ないようですので、次の「６ 南地区の概要」について、引き続き事務局から説明をお願いします。
事務局	議題資料の８ページをご覧ください。先ほどお示しした学校の配置と通学区域について、南地区の範囲を黄色で表したものです。赤い線は四中の通学区域を示しており、水色の部分は四中の通学区域のうち、西地区の六小学区と北地区の二小学区が含まれていることを表しております。分散進学をして各小学校から四中へ就学しているエリアです。 続いて、９ページをご覧ください。こちらは、南地区内の小中学校の児童生徒数及び学級数の推移を表した表になります。令和８年度を基準に、前後１１年間の推移となっております。令和１４年度までは既に生まれている子どもの人数を基礎として推計し、以降は令和８年度から１４年度までの増減率を基に推計しております。なお、適正規模未満となる年度には緑色、学年単学級存在となる年度にはオレンジ色を付けております。 １０ページをご覧ください。こちらは、９ページの児童生徒数の推移を折れ線グラフで表したものです。平成２７年度から見ていきますと、年度によって多少の浮き沈みはありますが、いずれの学校も児童生徒数が減少しているのがわかります。 続いて、１１ページから１３ページまでは、南地区の小学校及び中学校について、学校ごとの情報を１ページずつまとめた資料になります。構成としましては、資料左側に学校の空撮、右側に令和８年度時点の基本概要として、所在、創立年、建築年度、校舎面積、教室数、進学先、周辺施設、対象の放課後児童クラブを掲載しております。また、下段には学校再編に関する主な事項として、令和８年度時点と１９年度時点の状況のほか、適正規模に関する課題が生じる見込みの年度とその内容を掲載しております。さらに、最下

	段には児童数及び学級数の推計を掲載しております。学校ごとに学校再編に関する主な事項の部分を中心にご説明させていただきます。 1 1 ページの五小をご覧ください。五小は令和 8 年度時点で 1 学年と 3 学年の 2 つの学年が学年単学級になっております。その後、学年単学級は、令和 1 1 年度時点で 4 つの学年、令和 1 2 年度時点では 5 つの学年になることが見込まれ、令和 1 3 年度以降では全学年が学年単学級になることが見込まれております。さらに、令和 1 6 年度時点では 1 つの学年が適正規模の暫定基準、この暫定基準とは単学級の場合、小学校 1、2 年生は 1 学級 1 6 人以上 3 0 人以下、3 年生から 6 年生は 1 学級 1 8 人以上 3 5 人以下でございますが、こちらを下回ることが見込まれております。令和 1 9 年度時点でも、2 つの学年で適正規模の暫定基準を下回ることが見込まれております。 続いて、1 2 ページの美園小をご覧ください。美園小は令和 8 年度時点で適正規模を維持しておりますが、令和 1 1 年度時点で 1 つの学年が学年単学級になることが見込まれております。その後、学年単学級は令和 1 3 年度時点で 2 つの学年、令和 1 4 年度時点で 4 つの学年、令和 1 5 年度から 1 7 年度にかけて 5 つの学年になることが見込まれており、令和 1 8 年度以降は、全学年が学年単学級になることが見込まれております。また、令和 1 7 年度以降では、1 つの学年が適正規模の暫定基準を下回ることが見込まれております。以上が南地区の小学校の学校再編に関する主な状況です。 続いて、1 3 ページの四中をご覧ください。四中は令和 8 年度時点で適正規模を維持しておりますが、令和 1 6 年度時点では 1 つの学年が適正規模を下回ることが見込まれており、令和 1 7 年度以降は 2 つの学年が適正規模を下回ることが見込まれております。また、令和 1 9 年度時点では令和 8 年度と比べて生徒数は 1 8 0 人減、学級数は 5 学級減となることが見込まれております。以上が、南地区の中学校の学校再編に関する主な状況です。 最後に、1 4 ページと 1 5 ページをご覧ください。こちらは、ただいまご説明した内容を小学校と中学校ごとに課題別に分けて一覧にしたものです。右側には解決の方向性の枠を設けておりますので、この後の協議の際にメモ欄としてご活用ください。 本日は、学校再編に関する南地区の現状と課題を共有し、委員の皆様から課題ごとに解決に向けた方向性のご意見をいただきたいと思います。本日のご意見を踏まえ、次回方向性を決定し、具体的なシミュレーションに進んでいきたいと考えております。事務局からの説明は以上となります。
委員長	ありがとうございました。今回は方向性について皆様からご意見をいただきます。次回、それを踏まえたシミュレーションを事務局から出していただき、

	より具体的な方向を決定していくという段取りの説明だったと思います。説明がありましたように、適正規模や分散進学等の観点から現在と将来の学校別の課題が整理してあります。五小、美園小の2つの学校と四中で適正規模の課題、また、四中では二小と六小からの、今回南地区には入っていない小学校からの分散進学が生じているという課題があります。 小学校は既に五小で単学級が2つの学年で生じており、美園小でも令和11年度に学年単学級が生じる見込みです。四中では若干のタイムラグがあり、適正規模を割り込む2学級の学年が生じるのは令和16年度の見込みです。それでは、これらの課題を解決するための方向性について、まずは小学校について皆様のご意見をお聞きしたいと思います。
委員	議題資料8ページの資料が出ていたので良かったと思います。小学校と中学校が別々の資料だと全然意味がないです。 前にもお話ししましたが、小学校では令和13年度に五小が全学年で1クラスになる頃というのが一つの枠組ですよね。次に、四中に適正規模未満の学級が生じるのが令和16年度頃ということで、どの段階を我々が目安として進めるかというところがまだ未確定です。これはあくまでも南地区だけで、ほかの地区を考えた時にはまたそれがずれるかもしれません。 私が作った地図で見るのが一番良いです。問題は二小の部分です。二小がいろいろな中学へ行っています。六小もありますが、人数もあまりおらず、今年度はみんな三中へ行っているということでそれは解決できるのかなと思います。検討エリアを3地区に分けたので、3つの中学校かなと思うとそうでもなさそうで、4つの中学校か5つの中学校かよくわからない、何年を到達点にするか。なので、できれば逆から行くべきだと思います。現状から細かく分析して進めるのではなく、将来から総合的にやって、理想的なものはこの基準に合わせればもう3つだ、いや4つだとしていかないと、またもう1回再編することになってしまうわけです。もちろん、10年先はよくわかりません。わからないけれど、いろいろな統計資料を見れば、恐らくそうなるでしょう。外国人が増えるかもしれない、県外に行く人もいるかもしれない、でもそうは変わらないと思います。最終到達地点という理想形がまずどうかというところを決めていただきたいです。 3つの地区に分かれたというのは最初のきっかけですから仕方ないですが、それがそれぞれ進んでしまったらあとはぐちゃぐちゃになってしまいます。ですから、どこかの段階で総合的にこれを見つめる期間がないと、3つが散ってしまって結局小学校を一緒にしたけどまた違う所で一緒にしなくてはならないという話になってしまいます。ぜひ66町区の地図があると思うの

	で、それを基にして、私の作った地図が若干それに近いのですが、それでもって距離的なことなどを見ていくと良いと思います。 小学校の配置というのは、明治の初めの頃はすばらしかったですね。人口の中心にしっかりとあって、これからつくるんだとどこでもできましたが、今はそうも言うてはいられません。中学校も新設はしないで既存のものを利用するわけですね。もちろん小学校を中学校に直すという手もあるかもしれないし、中学校を小学校にするかもしれない、そういった時にお金の問題もあります。 先ほどの話に戻りますが、中学校が3つなのか、4つなのか。5つにはならないと思います。できれば東西南北が良いかなと私は考えますが、それを何とか決めてください。そこが起点になると思います。そうすることで、美園小と五小が一緒になる、もしかしたら美園の一部町区と一緒に五小に来るなど考えることができます。「あなたの所は再編で一緒になったけど、今度は五小の1年生に入ってください」というふうにしてしまえば、中1ギャップにならずに小学校の段階ですぐに振り分けられるということにもなります。 ですから、ぜひ町区ごとに、区長も関係すると思いますが、そういう形で細かく見ながら、一方で逆算して3つか4つかという点の両側から攻めていってほしいというのが、この地図を作った思いです。 もう1つは、2. 3キロメートルという基準がありますが、現在小学生で一番長い通学距離は何キロメートルですか。2. 3キロメートルという基準があるのでそれはそれで良いのですが、板倉町のホームページでスクールバスのページを開いてみると、ちゃんと地図が載っています。ご承知のとおり、板倉町は東西南北の小学校のうち北と南がなくなって、東と西になりました。それでスクールバスが2本、朝と夕方に出ています。乗れる地区が限られていて、乗る人は何らかの申込をするようですが、距離の制限は書いていなかったような気がしたのでどちらでも選べるようでした。提案ですが、近々板倉町に視察に行きましょう。板倉町は7年間かけてそれをやっていたようです。 最終的な私の見解として、美園小か五小のどちらかに行くことになるのは仕方ないことで、ゆくゆくはスクールバスが必要になると思います。それはそれで良いのです。具体的にわからないから不安があるので、スクールバスの利点がたくさんあると思うので、それは板倉町に聞けばもっとわかると思います。そのようなことを合わせて情報発信しながらやっていけば、皆さんの不安も解消し、明るい未来につながると思います。以上です。
委員長	今のお話は、最終形に近いところから遡及的に考えていくということだった

	と思います。
委員	皆さんが下から積み上げてきたものと合わせるのはバランスが難しいと思いますが、シミュレーションする上では大切だと思います。どこかである程度情報発信しながら、最終形というか、理想形があった方が良いかなと思いました。
委員長	その辺りのシミュレーションは事務局の方で作ってもらえると思います。地区外ですが、四小や九小、七小といった既に単学級化や複式学級が存在する学校がある状況からすると、喫緊で教育環境の確保というのが必要だという流れでこの話合いがされているという部分があると思います。確かにおっしゃるように、どこからどのようにしていくかという考え方もあると思いますが、まずは地区分けをした中で一つ、中期的な方向性を検討しようというところで進められればと思っております。いずれにしろ、南地区を考えると今お話をいただいたような時期での小学校の再編による教育環境の確保というのは必要だろうという気がいたしました。
事務局	事務局から通学距離の現状について回答させていただきます。一例ですが、例えば七小は東西に長い学区となっており、野辺町というところが基本方針で示した2.3キロメートルにちょうど入るような距離となっております。
委員	1町で1中学校、1小学校という場所もありますよね。その時にはもう選択の余地がない。今は皆さんのお知恵を出し合いながらまだ選択ができています。でも、いずれ10年、20年先のことを考えると、もう選択の余地はなくなるかもしれないと思います。まず、今の時点では今の子どもたちのことを考えた時に、最善の教育環境を保障していくことが先かなと思います。そのことによって、場合によれば多少人口、児童生徒数の減少も抑えられるかもしれない。ただ、この先私立の学校にどんどん持っていかれる可能性があります。私が中学校に勤務していた時は近くに私立の中学校と高校があって、毎朝結構な人数が駅前から出るバスに乗っていました。そういうことを考えていくと、まずは今の市内に住む南地区を含む児童生徒と保護者が安心して送り出せるような学校を築くこと、そのための教職員の研修を進めていただきたいこと、3つ目に、地域もそれを支える地域を新しく築かなければならないと思います。例えば、第五小学校で一緒になった場合、現在の美園小は六郷地区です。五小は赤羽地区です。そうすると、今まで六郷地区と赤羽地区の交流というのは行政地区で考えるとほとんどありませんでした。でも、これから先学校を新設した時、学校がどちらになるかはわかりませんが、地域で支えられるような新しい地域をまた形づくっていかねばならな

	いかなと、それも学校づくりの課題の一つだと私は考えております。
委員長	ありがとうございます。本当に大事な視点をお話しいただいたかと思います。前回お話ししたとおり、私は社会教育に少々関わらせていただいておりますが、本当に小学校が地域の自治を支えてきたといえますか、役割を担っていると思います。そういった点では、やはり小学校は地域にとって非常に大きな存在であるとともに、今が新しい視点が必要になる局面だとも思います。私は校長もやらせていただきましたが、職員数がギリギリだと何かあった時の対応というのが大変で、単学級は担任に何かあった場合に恐らく代わりがないので、管理職が入るような形になってしまうと思います。そういった管理の観点からすると、やはり安全面や子どもたちの環境を考えることも非常に大切な視点となります。
委員	第1回の会議を通して、また今も事務局の皆様から丁寧なご説明をいただきました。改めて、学校再編は単なる児童生徒数の減少という捉え方だけではなく、放課後子ども教室の居場所や保護者の方々の生活動線等々も含めて子どもを取り巻く生活全体を考えていくという大きな課題があるのだなと、考えさせていただく時間が非常に長かったと思います。 今回参加するにあたって、職員にも賛否ではなく現状というところで、現場から見た子どもたちの学びや生活、支援体制について感じていることを聞きました。現時点では子どもたちの学びや生活は一定程度保たれていると感じている職員が多かったです。一方で、今回の議題にもありますが、多様な児童への支援・対応については十分にできているというよりは、教職員の工夫や努力によって何とか対応しているというような切実な声がございました。その上で、適正規模・適正配置を子どもが減ったという対応だけで終わらせるのではなく、子育て世代に選ばれる教育環境というのは、そういった多様な背景を持つお子さんへの支援も大きな柱になるであろうと私なりに捉えております。多様なお子さんへの支援については、既に館林市も先進的な取組をされておりますし、すばらしい機能があるので、再編に伴ってその機能を固定化しているものを分散させるのか、各小中学校に新たに設置するのか、そういった視点も新たに必要になってくるのではないかなと考える部分もあります。 また、再編された学校へ通う手段や接続の方法といったことも一体的に設計していくと、より安心してお子さんを預けていただける学校にもなり得るのかなと思っております。
委員	学校の立場から言わせていただきますと、学年が単学級になりますと職員数

	が減るということで、先ほど委員長もお話しされていましたが、様々な対応、通級や不登校、外国籍への対応等が難しくなってくるということもあります。子どもたちの限られた学級編成という課題もありまして、再編するとそこでより広く関係づくりを毎年度変えていけるということにもなるので、そういった人間関係も含めて検討を進めて行ければと考えております。
委員長	ありがとうございます。これは使用施設の関係ですが、多様な子どもたちに関わるためには教室がたくさん必要で、前回お話もあったようになかなか目一杯な状況だということからすると、やはりそういった子どもたちの対応というのは一定の学校規模と職員数が必要であるということでしょうね。
委員	前回の会議を受けて、職員に報告をしました。五小では既に単学級が生じていて令和13年度には全て単学級になる予定だということ、美園小でも令和18年度には全てが単学級になるということ、四中では4年後にはもう3学級が生じて、令和16年度には2学級も生じてくること、学級数を述べただけでしたが、こんなに子どもが減るのかと非常に驚いていました。切実に課題を感じていたなど、様子を見ていて感じました。何か意見があれば言っしてほしいと伝えたら特に意見は出なかったのですが、資料をいろいろと拝見した中で感じた点として、例えば学校の築年数からすると美園小の方が新しいのだなど、学級数も五小よりも美園小の方が多いいところがありました。一方で8ページの地図を見ると、四中学区では美園小は西寄りですよね。距離的にいえば五小の方がちょうど真ん中にあるような、そんな感じもします。ただ、これを人口分布にするとまた違ってくるのだらうなと思いました。実際に五小と美園小を比べると、美園小の方が70人くらい多いのかと思いますので、住んでいる所で見るとまた違ってくるだろうと、こういったところに重点を置くかによって随分変わってくるだろうなと思いました。距離の問題もいろいろ出ていましたが、私が勤めていた学校ではスクールバスが出ていた所がありました。1年生は何キロメートル以上の場合にここから乗っていいですよ、3年生からは少し距離を延ばしてここから乗っていいですよということで、学年でバスに乗れる距離が違っていました。1年生の時はバスに乗れていたけれど、中には3年生から歩いて登校しなくてはならない、そういったところがあるので、その辺りは柔軟に対応できるのかなと思っています。感想ですが、以上です。
委員長	ありがとうございます。非常に重要なご指摘をいただきました。基本方針の方向性からすると、どちらかの校地を原則に展開するという中で、本当にこれは非常に重い問題であり、大事な問題だと思います。それぞれの学校の歴

	史もありますし、今の校地の状況、子どもたちの状況等もあると思いますので、その辺りのところはいろいろな要素を更に資料化して勘案しながら進めていくことになるでしょう。
委員	今ちょうど年長児の保護者の方が就学に向けて悩んでいる時期です。特に、特別な支援を要するお子さんお持ちのご家庭の方にとっては、各学校の特色や学級の特色というところで、非常に考えている時期ではあります。今後学校が一緒になっていく中、いろいろな地域も一緒になっていくというところで、それぞれの地域の特色というものもありますので、今後保護者や子どもたちがどのようにその特色にうまく対応していけるかというところが私たち職員としてはとても不安なところであります。 今回保護者にアンケートを取らせていただいたのですが、職員には口頭でこの報告をしながら意見を毎回募っていました。徐々に具体的な方向性などが見えてくると、職員の方も大きな不安、そして意見も出てくるのかなというような話があったところです。特に、年長の保護者の気持ちを考えると、今小学校へ向けてのスムーズな移行を考えているのですが、今後いろいろな学校が一緒になってくるということで、保護者の思いや生活の流れの変化等も理解していかなくはいけないなというところを職員の方では考えているところです。
委員長	ありがとうございます。我々は南地区の検討をしています。当然北地区と西地区の方でも同時並行で検討しています。学校数からするとずっと大きな検討がなされていて、やはり市全体で大きな変化が生じる可能性があります。小さなお子さんをお持ちの保護者の方の不安に寄り添っていくということは非常に大切です。これは市教委の方で丁寧にされるとと思いますが、説明や体制整備をしっかりと行って、子どもたちが安心して学べるように進めていくことが重要かと思います。
委員	こども園の話が少し出ていましたが、公立園をこども園化する際に配られた資料の中には、少子化と少人数になってくるのでこども園化して人数を増やしていくという理由も一つありました。先ほどから単学級の件も問題になっていますが、どう抗っても少人数でしかやれない園もあるので、そういった点を問題視されてもというところはあります。これは小学校とはまた別問題としてです。 委員長からもお話が出ましたが、既に単学級で何年も経過している小学校もあるわけですね。単学級の運営などを課題にするとかなりにはなるのですが、既にそこで勉強して卒業していった子どもたちもたくさんいるの

	で、言葉の選び方が難しいという課題があるかと思います。それを解消するにあたって、子どもたちの学ぶ場所も重要ですが、そうではなくてもっとダイナミックな、少し生々しいですが、再編するとういうふうにお金を使って子どもたちに効率よくこういう教育を与えられるようになるんだと、こういう教室が使えるんだと、こういう勉強が与えられるんだというような言い回しがきつとあるかと思っています。それを早々に出していただいて、この再編のメリットを通学距離や単学級といったことも重要ですが、そうではなくて相殺することによって与えられるもっとも大きなメリットを見せてほしいなと思います。
委員長	ありがとうございます。 ちなみに、四小が単学級化したのはいつ頃でしょうか。
事務局	確認いたしますので、少々お時間をいただければと思います。
委員長	私も経過の認識があまりありませんでした。おっしゃるように、これまでの子たちが卒業していった中で説明の仕方は工夫しないと、という気はしました。再編を行う際、理念的なものとか、具体的なことも含めて教育がこれだけ良くなるといった話はしっかりプレゼンができないと、なかなか活力にならないと思います。縮小再生産のような話だと元気になるので、そこはもうぜひ市教委の方に工夫をしていただきたいなと思いました。
委員	親の不安を取り除くという点について、報告にあった特別な支援を必要とする子たちの学級数は、付属資料集を見ると結構小学校によって違って、とても多い小学校と少ない小学校があります。そういうところも合わさるとい点で、先生の配置などの問題もあると思うので、そこも統合した時にどうなるのかということを見せていただけると親の方も安心するのかなと思いました。
委員長	ありがとうございます。これからの教育にとって極めて重要なところで、そういった部分が入学前に見えると保護者の方も安心できるかと思っています。
委員	質問ですが、議題資料7ページに書いてある中1ギャップの懸念というところが気になっていて、二小と六小の一部が四中に来ていると、各小学校で築いた人間関係がバラバラになってそれぞれ別の中学校に行くという流れで、例えば中1ギャップで二小から四中に来た子、六小から四中に来た子で不登校になる子はどれくらいいるのでしょうか。人間関係が崩れたからといって、それで不登校に入る子はどれくらいいるのかということが疑問に思いま

	した。うちの子は結構分散進学で来た子たちと仲良くなっていたりして、それがすごく良い結果になっているところもあったので、どれくらいこのギャップを感じているのかなと思いました。 あとは、私が以前教員をやっていて特別支援の方に携わっていたので考えてしまうところなのですが、特別支援のクラスを確保するという点で職員の数は確保できると思いつつ、同時に分断になっているのではないかなと、クラスを確保すれば解決することではない部分でもあるのかなと思いました。一緒になることが悪いわけではないですが、小学校が統合された場合にスクールバスで行くことになる、恐らくそういった特別支援学級に入っている子たちというのは、大人数で密閉された空間が嫌な子が一定数いると思います。その子たちがスクールバスにまず乗れるのかということもやはり考えないといけないのかなと思いました。 例えば二小が残って五小が残ったとしたら、地区ごとに考えるのも大事ですが、まち全体として考えて、二小地区は中心市街にあるので何か商店や賑わいに関してこういうことが学べますよ、五小地区では五小や美園小地区には農家さんが多いので、農家に関することが学べますよという何かしらの特色が出てくると、親も居住地を選ぶ時に住み分けしていくのではないかなと思いました。先ほど意見で出ていましたが、例えば五小と美園小が美園小の方に統合された場合に、本当に決まってしまうと赤羽地区と美園地区の地域交流のやり方もどんどん変わっていったら、小学校が統合される前にもう地区は子どもを支える準備できていますよという状態になっていると良いのかなと思います。どこから手をつけていいのかというのは私もよくわかりませんが、いろいろな人たちが水面下で動けるように、小学校区を考えた時に地区も一緒に育てていくのがとても大切なのではないかなと思いました。まとめませんが、以上です。
委員長	非常に大事な視点かと思っていて、高校ですと特色が鮮明にできていると言えるところがあるのですが、小中学校はまさにおっしゃっていただいたような地域性を一つの特色としてある意味特化した教育ができるということが大きな特色になりますし、地域に支えていただく所以にもなるのかなと思いました。 それから中1ギャップに関わって、「分散進学の中での不登校の状況」についてお話しするのは少々難しいかと思います。
委員	難しいとは思いますが、いるのかなと不思議に思ったのでお聞きしました。子どもの同級生を見ると、分散進学の子たちも結構元気だなという印象だったので、その子たちはその子たちで良しと思って来ているのだろうなど

	子どもを育てていて思ったので聞きました。
委員長	そのようなデータはあるのでしょうか。
事務局	分散進学の実状については先ほどの付属資料に記載しておりますが、その結果不登校となったお子さんの数については私どもの方ではデータは持っておりません。しかしながら、やはり市民説明会の中でそういったことお声もありましたし、お配りした報告資料集9ページの21番、西地区のご意見の中にも「分散進学や中1ギャップは保護者の立場として痛感している」と、西地区も分散進学がありますので、そういった方もいらっしゃいました。今回、六小から四中へ進学する予定のお子さんが5人いらっしゃったと説明しましたが、そのお子さんたちは六小の大多数が行く三中に変更して行っているというのも、そういった友達と離れるのが寂しいということもあるのではないかと推察しております。 また、四小の児童数についてご説明いたします。平成27年度現在で、既に各学年単学級の76人でした。大島地区は平成6年度から7年度にかけてリバーサイド大島が造成されまして、一番多い時で280人近いお子さんが通っていた時期もありましたが、その後リバーサイドのお子さんが成長して卒業していくと減少傾向になっております。いつからとは申し上げられませんが、そのような状況です。
委員長	具体的なお話ではないですが、そのような形で把握をしているということでご理解いただければと思います。
委員	わかりました。
委員	最初の方がおっしゃっていたとおり、今見直しても結局11年後に少子化で人数が減ってしまうので、そういうこともきちんとしっかり考えていく必要があるなと思いました。 また、保護者に意見を聞いてみました。統合については反対という意見は今のところありませんでした。もう少子化というのは仕方がないことだし、保護者もそれは重々わかっているの、この学校に絶対通わせたいというわけではなく、子どもたちが安心して安全に良い学校に通えるようにしていきたいということだったので、そういったところが必要なのかなと思ったのと、以前市の方からQRコードが付いた紙を保護者に見てくださいということで配布していただいたと思いますが、私がお話したところ「ん？」といった反応でした。どうしても保護者は無関心になってしまう、どうしてもまだ小学校が先に見えていないので、そういった関心の低さというのはあると思

	うので、しっかり工夫して情報提供していく必要があるなと思いました。 また、意見の中では統合に関して、やはりスクールバスになるのかなというところで、安全の管理や、夏場の閉じ込めによる事故で悲しいニュースもありましたので、そういった対策の徹底であったり、旗振り当番の問題、どこからどこまでがバスに乗れるのかなど、そういった具体的なことも心配していました。あとは、板倉町や桐生市など、統合を今までしてきた自治体に実際にどうだったかしっかり意見を聞いて調査していく必要があるのかなというお話も出ていました。実際に保護者が住んでいた市では、ほかの地域では統合したけれど、山の方だと統合はできないから母校はなかったというお話もあったので、学校のそれぞれの在り方など、もう少し周りの地域に目を向けて、広い視野を持って検討していく必要があるかなと思いました。
委員長	桐生市では先日かなり大きな計画を出して、現在は市民説明会をされていたと思います。 今お話をいただいたように、これから保護者となる方に関心を持って一緒に参画していただくということが非常に大切です。その辺りは行政の方も粘り強くやっていく必要があるので、他地区の状況把握も含めてしっかりと取り組んでいければと思います。
委員	どうしても通学距離や制限がある中、ほぼ残す学校なども決まっているのではないかな、結局変えられないかなというところも自分の中にはあります。 私はちょうど子どもが多い頃で、9クラス40人編成でした。300人も同学年がいる所で育ちまして、結局卒業まで一言も話さない同級生などもいました。 人間関係の構築等いろいろありますが、適正な数がどうしてもあると思います。少なくとも駄目だし、多すぎても駄目というところもあると思うので、まずはもう学校を何校にすると、この学校は3クラスか2クラスだと決めて、その数に充てていくという方法しかないのかなと思っています。最初に意見が出ましたように、そうなれば通学手段が一番大事になってくるのかなというところもあって、スクールバスとか、徒歩で通える人を優先にとか、2校くらいから選べるとか、手段によってやっていくようなことも考えた方がいいのかなと思います。保護者の立場で言いますと、保護者の中でも「あの学校の方が良かったな」「こっちの学校に行かせたかったな」「職場に近いからこっちだったら送っていけるのに」など、そのような意見を聞いたこともあります。 要するに、もう少子化がどうしようもないのであれば、この学校は何クラスと決めて、抽選というわけにもいかないと思いますが、希望を取るとか、徒

	歩で通える人を優先にして、スクールバスで通えるなら選べますよとか、そういうふうにしていくようになるのかなと思います。結局、通えないから中心部に全部集まることはもうないと思っていますので、であればもう早めにこの学校を残して、ここを何クラスにする、じゃあここに通える子どもはどうしようと決めていく。人間関係の話も相当出ましたが、ずっと仲の良い人にくっついていけば不登校が出ないという考え方も社会では通用しないと思います。結局、新しい友達ができて新しい人間関係を構築するという能力も教育で必要なところだと思います。同じ子とばかりくっついてきたから新しい環境に慣れずに弱くなって不登校になるということもあると思うのでその辺りはもう考えずに、通学の手段や通える範囲等いろいろあると思います。 今は恵まれていると思います。先ほど私が言った9クラス40人編成の学年の中には、50分や60分かけて歩いて来ている子もいました。それほどクラスがあるのに、学校は増えませんでした。今は逆に減らさなくてはいけないという話ですが、本当に贅沢といえば贅沢です。ですから、もうこの学校にすると早めに決めて、そこが何クラス定員だと決めて、そこに通える人はこうだと決めていくのが早いのかなという気がします。一番は通学の手段ですね。徒歩では通えないような子も出てきますし、保護者の送り迎えというのは百パーセント期待できるものでもないもので、そういった話を中心に詰めていければと思っています。
委員長	ありがとうございました。小学校については通学時の安全や、児童生徒や保護者への配慮、地域への配慮、学童の在り方、多様な子どもたちへの対応等についてのご意見をいただきました。そういった環境整備の部分は当然一番大切なことであり必要なことですが、一つ、方向性として適切な学習環境を確保するという観点、単学級や複式学級等を回避するという観点から、南地区では2つの小学校の早期の再編が望ましいということ、それから、どの校地を使用していくかということについてはメリット・デメリットを更に検討していく必要があると思いますので、改めて事務局の方から資料の提示等をお願いしながら次回皆さんと検討していくといった方向性かと思います。 続きまして、中学校の課題についてご意見をいただければと思います。四中は小学校と比べて適正規模の基準を下回るのが後ですが、令和16年度には下回ってしまうことが見込まれています。また、四中は別地区である二小と六小の分散進学先となっている状況です。こちらも学校再編の方法である学校の統合と分散進学の解消を図るための通学区域の見直しを視点に、この状況を解決するための方向性としてどのようなことが考えられるかというこ

	とで、ご意見を伺いたいと思います。
委員	先ほど小中一緒のつもりで話していたので、中学校だけの課題と言われると少々難しいです。小学校は決して数が多いわけでもありませんが、個人的には今のままでも良いと思っているくらいで何とも言えないところがあります。
委員長	二小や六小の分散進学がどうかというところがあると思います。今四中学区に入っている数を、分散進学だから北地区や西地区の中学校に行ってくださいとした場合の人数は恐らく20人前後になりますので、中学校の縮小がやや早まることになります。分散進学の扱いによっては、四中の今後の生徒数に影響が出る可能性があります。
委員	今年度は六小からの進学はなく3校からの進学でしたが、入学式ではどの小学校出身というのではなく今日からは第四中学生だよと、小学校の垣根を越えてみんなで仲良くしていこうというお話をさせていただきました。1年生の先生には人間関係づくりをよくやってほしいと、黄金の3日間ではないですけれども、人間関係づくりでみんなが安心して過ごせるように配慮をお願いしますと伝えました。先生方が工夫してレクリエーションをしたり、クイズをしたり、非常に笑顔が増えるような取組をしていました。ご意見があったように、やはり部活や学級の中で小学校の垣根を越えて仲良くなって新しい人間関係が生まれてくるので、複数の学校からは来ますが、それはそれで新しい刺激となるので良いなとは思っています。 ただ、人数的なことを考えると令和16年度から2学級の学年が出てくるので、そうすると教科指導や教員数など、課題というのは随分大きくなってくるといえるのは感じます。桐生市のお話がありましたが、7月2日の新聞に学校編成の表が出ていました。第一段階、第二段階といった形で段階的な計画になっていたのですが、それを踏まえると例えば第一段階で小学校が再編されて、第二段階で中学校が再編されてというように、四中を含めて考えると二段階が望ましいのかなと、時期はずらしてもいいのかなという感じがしています。
委員	私自身は六小から少人数で四中に行って、その時も6人くらいでした。でもそういうものだと思っていましたし、仲良しの友達と離れることはやはり不安や心配がありましたが、結果的に小学校の垣根を越えていろいろな人と仲良くできたという意味では人間関係が広がって悪いものではないのかなとは思っています。ただ、私が保護者の立場になったらやはり少ない人数のところに通わせるということは心配だなと思うので、両面あると思いますが、必ず

	しも悪いことではないのかなとは思います。 今はコミュニケーション不足や子どもの心の育ちのことなどが結構言われているので、何も排除しなくてもそういうところで子どもの心を育てる、それを親や地域も一緒に育てていくというのは逆に良いことかと思いました。
委員	私も先ほど中学校も含めて言ってしまいました。団体の会議でお話した時にあまり意見は出なかったのですが、恐らくもう卒業するから課題意識となるとそこまでないのかなというのは感じました。 先ほどのお話ではないですが、2クラスになると先生たちの人数がぐっと減って、国語や数学は時数的に大丈夫だとしても体育や技術家庭となったらどうなっていくのだろうと考えました。先生がほかの中学校や小学校と掛け持ちとなった時、例えば担任の先生とは少し馬が合わないけれど、隣のクラスの技術の先生とは馬が合うみたいな子どもたちがいた場合、相談したい時にその先生は違う中学校に授業をしに行っている状況などを考えた時、先生方があまり学校を跨いで移動しないような人数での枠組を考えていくと良いのかなと、お話を聞いていて思いました。
委員	多分私の頭が追いついていないからだと思うのですが、中学校の課題というのは学級減なのか、分散進学なのか、どちらが優先課題なのかがちょっとよくわかりませんでした。それによって、先ほどおっしゃっていたように段階的なやり方の方法も優先順位のつけ方によって違うのかなと思います。
委員長	北・西・南と地区分けをしていて、当然この枠を超えて他地区の中学校と、というお話はあり得るとは思いますが、南地区の設定としては四中に対して小学校2つというようにしたと思います。令和16年度以降になると四中の状況も厳しくなってきますが、タイムラグがあります。検討委員会を北・西・南地区で進める中では、通学区域の問題というのが一つ大きなテーマとしてあります。分散進学の観点からすると、やはり二小が3つの中学校に行っていることはとても大きい問題だと思いますので、そうするとその一部が四中に来ているということが課題として捉えられている資料になっているかと思います。ほかの地区はこういった課題が更に多くあると思います。 南地区は一見シンプルですが、この部分は北と西が絡む話なのでどのように考えるべきか、そういったところについてご意見を伺えればと思います。
委員	園のほとんどのお子さんが美園小に入学しているので、六小学区の保護者の中には小学校も少人数で六小に上がるのに、更に今度は中学校に入学する時も少人数で四中に行くということをととても懸念されている方もいます。子どもたちは新しい人間関係を構築するのはとても早いですし、いろいろな経験

	をしながら成長していくと思いますが、やはり今保護者の心配が大きくなってしまっているところがあるので、お子さんの力を信じましょうとかいろいろ背中を押しています。中学校の先生たちが様々な工夫をして人間関係づくりをしているというお話を伺って私自身もとても安心しましたので、そんなお話も保護者にしていきながら、もちろん心配はあっても信じながら支えていくということも必要ということを保護者の方にもお話ししていきたいなという思いです。
委員	違った視点でお話したいと思います。分散進学の場合、小学校が2つに分かれてしまうと小中連携が非常にしづらかったという経験がありました。中学校はこういう方針でやっていくので小学校はこのように一緒に連携しようとなっても、小学校のうち片方はうちの中学校区だけれども、もう片方は違う中学校へ行くとなると、なかなかの連携の難しさがありました。 また、中1ギャップのお話がありましたが、やはり小学校から中学校に上がる時は誰しも不安を抱えていると思います。ましてや、同じ小学校から行く子と比べると、中学校で分かれてしまう子どもというのは二重の不安があるかと思います。そういった不安を取り除くという意味では、分散進学ではなく1つの小学校ごと1つの中学校に上がる方が、壁を取り除いてあげられる一つの方策になるのかなという感じがしています。
委員長	先ほど少しお話ししましたが、小学校を統合するとすれば南地区については小学校1校と四中ということになるので、非常に緊密な連携が早くから期待できる体制にはなります。今おっしゃったような強い連携を取るには、やはり分散進学がない方がやりやすいということもあると思います。それが地区の一つの特色になるのであれば、大いに意味があることではないでしょうか。
委員	小学校と中学校では適正規模の課題というのが年度で多少ずれがありますので、やはり小学校の第一段階というところと中学校の第二段階というところでやるのは致し方ないかなと思っております。 分散進学について、二小の方はずっと200人くらいの人数でキープしているところがあるので、その辺りがちょっと難しいなと思います。五小と美園小は割と四中へというところがあると思いますが、その辺りが課題だと思います。年度ごとに希望する学校も子どもたちや保護者によって変わってしょうが、町内、この地区からはこっちにするといった決め方が難しいところだと感じます。
委員	本当にいろいろな制約や縛りがあるので一気に解決するのはなかなか難し

	いと考えていることを前提で、この取組のスパンも4年から5年というお話があったと思うのですが、例えば今分散進学をしている二小や六小で選択的進路選択を可能にして、現状の保護者の考え方やお子さんへの配慮ができるのかを検証するのも一つなのかなと今お話を聞いていて思いました。ただ、それを検証する時間を並行して取るのはなかなか難しいところではあるかもしれませんが、そういうゾーンができ得る場所がここにもしあるとすれば、一つの方策になるでしょうか。思いつきで申し訳ありませんが、そんなことを考えました。
委員	私は南幼稚園から二小、今の三中に進学しました。時代もありますが、緑町一丁目、緑町二丁目に住んでいた同級生の中には何もトラブルはなかったです。その子の生い立ちなり病歴なり、いろいろなことがあって不登校とかそういうものに家庭環境も含めてなるのかなとは理解しています。 また、中1ギャップという話で、このところ文科省の資料にも中1ギャップが出ているからそのままここにも持ってきたのかなと私は理解しています。ずっと中学校にいたのでどうしても中学校の管理職の思考になってしまうのですが、小学校が単学級になってくると私自身の経験では両極端になる傾向が強いなという思いがありました。単学級に近くなると教員数が少なくなっていくから、学級担任が変わりにくい。そうすると、本当に1年生から6年生までずっと同じ教員で育てきて、それが良く出る時と逆にマイナスに出る時があります。中学校の立場からすると、生徒指導をしていた頃はいじめもその他もわんさかあった時代なので、両極端に出てくる可能性があるなと思います。たまたまその子どもたちと学級担任との相性、学級の児童生徒の様々な諸条件がうまく合った時には本当に素晴らしい子どもたちの時もあったし、逆にマイナスになった時にはもう十何人も小学校段階で生徒指導に引っかかって、そのまま中学校に入って中学校で荒れるというパターンも経験しています。 中学校は教科担任制ですので、ある程度の数がいないと教科担任の数がそろいません。それから、スクールカウンセラーその他の教員の余裕もなくなってくる可能性も高い。そのようなことを考えると、ある程度の学級数と教員数は確保した方が良いです。たった3年間でも、中学生は心も体も小学校の6年間分くらい大きく成長していきます。やはり中学校はある程度生徒数を確保して体制を整えることが大切だなと、私自身経験上ではそのように感じています。逆に言えば、これから中学校の校長も含めて教職員の数がどんどん減ってくると、教職員の負担も増えていきます。子どもの数が減るから少しは軽くなるかもしれませんが、でもそういう要素は残るなという思いもあ

	ります。将来的なことを考えた時に、20年先ではなくて5年、10年先だけ考えた時に、ある程度の学級数は教職員も含めてきちんと整えておくことが、子どもたちのために必要なと思っています。
委員長	ありがとうございます。中学校にも一定の学校規模が必要というお話だったと思います。先ほど申し上げましたように、中学校の再編も視野には入っているかと思っていますので、参考にさせていただきます。
委員	まず、小学校が2クラスで中学校が3クラスという根拠は何ですか。
事務局	基本方針でそのように基準を定めております。小学校は各学年でクラス替えができるように2学級以上、中学校は先ほど話題に出ておりました教科担任制や専科の先生を配置できるように3学級以上としております。
委員	前にも言ったと思うのですが、1クラスの人数を20人くらいにするとか、極端な場合18人にするとか、クラス数がしっかりすれば教員配置もできます。ということで、今後1クラスの人数を更に減らすということが1つ。 もう1つは、先ほどから出ている分散進学についてです。二小、六小、十小問題がありますが、六小問題は大体三中に行くということなので解決しましたよね。十小問題というのは、地図で見ると最初からもうちょうど真ん中辺りで分かれていますよね。
事務局	中学校区として見ると、ちょうど赤い線で分かれて示されております。
委員	二小の分散進学の問題は、二小の在り方だと思います。伝統ある学校なのでなかなか難しいとは思いますが、真ん中にありすぎるので必ず在り方を考えなくてはいけなくなります。三小と一緒にした統合、一小と六小に分かれる案もあります。どのように北地区で話が進んでいるのかわかりませんが、考えざるを得ないと思います。私たちは南地区ですから、そういった意味では二小の動きによって若干変わる可能性はありますが、9割方美園小と五小で話が進むのではないのでしょうか。
委員長	ありがとうございます。中学校の課題についていろいろご意見をいただきました。四中についても今後を考えるとしかるべき段階で再編の検討は当然必要になると、また、それは大きな検討になるだろうと思います。 それから、小学校が再編して小1校、中1校になった場合、一層緊密な小中連携が期待できるのではないかというご意見もいただきました。分散進学もそういった意味では小中連携で考えると少ない方が良いかもしれないと考えられます。解消は難しい問題ですが、今のお話にもあったようにまさに二

	小、六小のお話でもありますので、我々だけで決めるのはどうかということもあります。分散進学については、またいろいろな面でもシミュレーションをいくつか作っていただき、必要があればより広い議論をするという方法もあると思います。 ここまで長時間にわたり、ご意見をいただきありがとうございました。全体を通して何かご意見等があればお伺いしたいと思います。 (意見等なし) それでは、南地区の課題、適正規模の確保、それから分散進学等々の課題解決に向けて本当に様々なご意見を頂戴しました。これをもってまた新たな資料を用意していただき、次回深掘りをしてまいりたいと思います。また、前回もお願いしましたが、委員の皆様にはぜひ所属団体や関係の皆様にも本日の会議内容について情報共有をいただくとともに、各団体のご意見を集約していただき、次回委員会でのご発言をお願いいたします。その結果をもって、次回の検討委員会で課題解決の方向性を決定してまいりたいと思います。 大変長時間ありがとうございました。予定しておりました議題は終了いたしましたので議長の座を降りさせていただきます。
委員	ちょっとよろしいですか。 スクールバスについて、近くに先行事例があります。ぜひ近々、教職員と保護者、市職員と相手方で意見交換会ができればと思います。「板倉町」「スクールバス」と検索すると具体的に載っていますので、それを見て事前学習していただきたいと思います。
委員長	そちらについては、事務局の方でまた検討をお願いしたいと思います。大変おつかれさまでした。ご協力ありがとうございました。

3 その他

- ・第3回南地区検討委員会は、8月25日（火）午後6時から分福公民館で開催。
- ・中村教育長から挨拶

発信者	内容
教育長	皆様、改めましてこんにちは。本日は熱心な話し合いをありがとうございます。 この検討委員会は3地区でやっておりますが、3地区合同で話し合わなくてはならないような課題もございます。ですので、ここでの結論が出ないのは当然で、この後、今週中に北地区や西地区の話し合いが行われます。全ての話し合いの内容はその都度皆様にお伝えしていきたいと思います。中学校の問題

	などはここだけでは特にどうにもならない問題ですので、そういった疑問点等いろいろなことを出していただいて大変ありがたく思います。これからお気づきの点を出していただきたいと思います。 今回、館林市では教育委員会で全てを決めてからそれについてご意見を伺うような出し方はしませんでした。今この段階からご意見をお伺いしながら、一番良い方法でつくっていきたいと本当に考えております。ぜひ、お気づきの点やアドバイスをたくさん今後も出していただくようお願いしたいと思います。本日は大変ありがとうございました。
--	--

4 閉会